

2021 年 2 月 24 日

2020 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科

修士論文

経済連携協定(EPA)で来日し国家試験に合格した外国人看護師の

日本での職務継続に影響する要因

Factors Affecting Job Continuance of Nurses  
Who Migrated under the Economic Partnership Agreement (EPA)  
and Passed the National Examination

19MN304

庄木 里奈

## 要 旨

### 【目的】

EPA で来日し、国家試験に合格した外国人看護師の日本での職務継続に影響する要因を明らかにすることである。

### 【方法】

本研究は Web アンケートと Web インタビューを用いた横断研究である。研究対象者は、EPA で来日し、日本の看護師国家試験に合格後、現在日本で看護師として就労する者とし、厚生労働省が公開している EPA で来日した外国人看護師が就労する施設の看護部長を通してリクルートした。

Web アンケートでは、基本属性、離職願望尺度（3 項目）、現在の仕事の満足度（7 項目）、日本で仕事を続ける理由（自由記載）についてデータを収集した。離職願望尺度合計得点を従属変数、基本属性と現在の仕事の満足度を説明変数として、Spearman の順位相関係数、Mann-Whitney の U 検定、および Kruskal-Wallis の検定を用いて分析した。統計解析には SPSS Version 24 を使用した。

Web インタビューでは、職務継続要因に関するインタビューガイドを用いた 60 分程度の半構造化面接を実施した。録音した面接内容を全て逐語録に起こし、質的記述的分析を行った。

研究期間は 2020 年 7 月から 10 月であった。本研究は聖路加国際大学研究倫理委員会の承認を受けて実施した（承認番号:20-A027）。

### 【結果】

137 施設に 361 部の研究参加依頼書を送付し、40 人から Web アンケートの回答が得られた。参加者の平均年齢は  $32.3 \pm 4.2$  歳で、日本での看護師経験年数は平均  $3.9 \pm 3.1$  年であった。離職願望尺度合計得点と有意差のあった関連要因は、仕事の内容、職場の人間関係、夜勤の回数、および仕事と私生活のバランスの満足度であり、負の相関がみられた。

インタビュー参加者の年齢は 20-30 代で、インドネシア人 3 名、フィリピン人 3 名、ベトナム人 3 名であった。EPA で来日し国家試験に合格した外国人看護師の職務継続に影響する要因として、【職場の手厚い支援】、【キャリアとして有益な日本での看護師経験】、【日本で生きる決意】の 3 つの大カテゴリーが抽出された。さらに、《頼れる上司》、《同僚との良好な人間関係》、《働きやすい労働環境》、《優れた日本の看護》、《日本でのキャリアの目標》、《現在の仕事への愛着》、《魅力的な日本での生活》、《家族で移住》の 8 カテゴリー、および 31 のサブカテゴリーが抽出された。上司や同僚からの手厚い支援や、外国人看護師の特性に配慮した良い労働環境は、外国人看護師の職務継続を促していた。更に、外国人看護師は日本の看護を評価し、日本での看護実践を希望していた。日本に家族で移住し、生きていく決意のもと、職務を継続している外国人看護師もいた。外国人看護師の職務継続を促すためには、良い労働環境、上司や同僚からの支援に加え、外国人看護師の家族も含めた私生活までのきめ細かい支援が求められていると考察された。

### 【結論】

EPA で来日し国家試験に合格した外国人看護師にとって、良い労働環境、上司や同僚の支援、日本の看護への高い評価、日本への移住願望が、職務継続に影響する要因となっていた。